

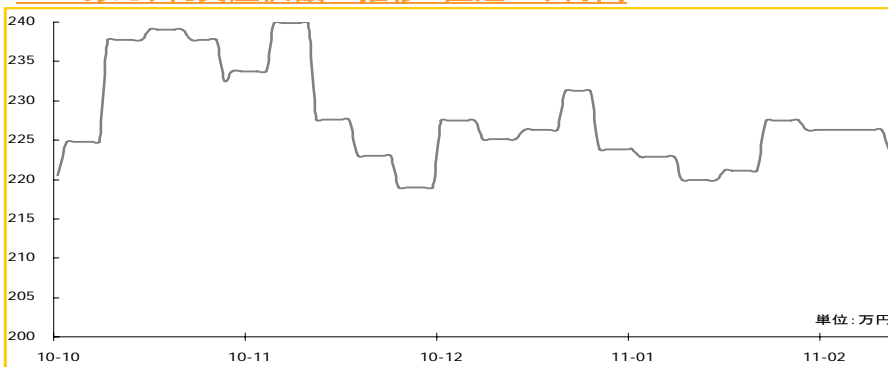
2月運用報告書(2011年2月1日～2011年2月28日)

純資産の推移(1口=百万円)

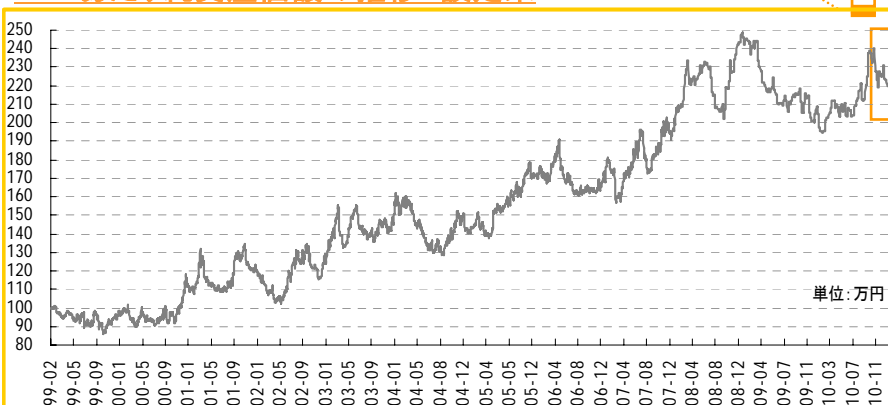
【年平均騰落率: 10.200%】

	設定時 (1999/2/1)	10月末	11月末	12月末	1月末	2月末
1口あたりの 純資産価額(円)	1,000,000	2,325,135	2,188,170	2,308,129	2,210,785	2,232,440
月次騰落率	-	4.297%	-5.890%	5.482%	-4.217%	0.979%
設定来騰落率	-	132.513%	118.817%	130.812%	121.078%	123.244%

一口あたり純資産価額の推移 直近五ヶ月間



一口あたり純資産価額の推移 設定来



マーケット概要

2011年2月のAHL分散投資プログラムの運用成績はプラスとなり、アセットトライは前月比+1.0%(確定値ベース)の利益となりました。

商品先物

エネルギーセクターは、プラスの結果となりました。米国での予想を上回る温暖な気象予報を背景とした需要縮小の見直しを受けて、天然ガス価格は当月8.7%下落し、同売建よりリターンを獲得しました。原油は中東の政情不安により供給途絶が懸念されたことから、価格が上昇しました。

金属セクターでは、ベースメタル及び貴金属の買建ポジションが当月のパフォーマンスを牽引しました。銀のポジションは価格が20.8%上昇したことで最大の寄与となりました。また、地政学的緊張を受けて安全資産への選好が高まると共にインフレ懸念が重なり、金価格を押し上げたことで、同買建より更なるリターンを獲得しました。

農産物セクターは、需要拡大及び供給減少を背景に各市場が上昇を続けるなか、買建ポジションが奏功し、プラスの結果となりました。特に、綿花、コーヒー及びトウモロコシの買建ポジションより好調なりターンを獲得しました。

プラス要因	銀(買)、金(買)、天然ガス(売)	マイナス要因	原油(売)、小麦(買)、食用豚(買)
-------	-------------------	--------	--------------------

金融市場

債券セクターは、マイナスの結果となりました。当月半ばにエジプト及びリビアの政治混乱が高まり、安全資産への需要が増しました。リスク回避的な投資家が国債を購入する動きを示し、日本国債、豪国債、米国債及び英国債の売建は主なマイナス要因となりました。さらに、エマージング市場のインフレ懸念を背景に、生産及び輸出に伸びがみられる国では量的引き締めをもたらし得るとの予想から、日本などの安全資産である国債が選好されました。株式セクターは、当月好調な結果となりました。リターンの大半は月初に獲得し、良好な経済指標の発表及びエジプトの政情不安の沈静化は、世界経済回復への信頼感を高め、市場を押し上げました。TOPIX 指数の買建ポジションは、良好な企業業績を受けて日本株がその他地域を上回る上昇となり、最もプラスに寄与しました。また、香港ハンセン指数の買建ポジションや欧州株価指数全般に亘る買建ポジションも、さらにパフォーマンスを押し上げました。

プラス要因	TOPIX(買)、Euro STOXX(買)、香港ハンセン(買)	マイナス要因	豪国債(売)、日本国債(売)、米国債(売)
-------	----------------------------------	--------	-----------------------

通貨/短期金利先物

通貨セクターは、僅かにプラスの結果となりました。月初は、新興国市場のインフレ懸念、エジプトの地政学的緊張の高まり、米国債利回りの急上昇などを背景に、米ドルが上昇したことで、同売建ポジションがリターンの足かせとなりました。月末にかけては、米政策金利は当面の間低水準に止まるとの見方が強まったことを受け、米ドルは再び下落し、売建ポジションよりリターンを獲得しました。さらに、豪ドルがオーストラリア準備銀行(RBA)によるタカ派的発言を受けて上昇し、同買建ポジションからもリターンを獲得しました。しかし、これらのリターンは、米ドルに対する円の売り買い双方のポジションより被った損失により僅かに減少しました。

プラス要因	豪ドル/米ドル(買)、カナダドル/米ドル(買)	マイナス要因	円/米ドル(買)、ユーロ/英ポンド(売)
-------	-------------------------	--------	----------------------

短期金利セクターは、ユーロダラーが変動の激しい相場展開となり、売建・買建双方で損失を被りマイナスの結果となりました。

プラス要因	豪ドル/米ドル(買)、カナダドル/米ドル(買)	マイナス要因	円/米ドル(買)、ユーロ/英ポンド(売)
-------	-------------------------	--------	----------------------

短期金利セクターは、ユーロダラーが変動の激しい相場展開となり、売建・買建双方で損失を被りマイナスの結果となりました。

プラス要因	豪ドル/米ドル(買)、カナダドル/米ドル(買)	マイナス要因	円/米ドル(買)、ユーロ/英ポンド(売)
-------	-------------------------	--------	----------------------

短期金利セクターは、ユーロダラーが変動の激しい相場展開となり、売建・買建双方で損失を被りマイナスの結果となりました。

《投資家の皆様へ》 1999年3月以降に追加出資された方は、取得口数が参加時期により異なりますので、別添の募集月別のアセットトライ評価額一覧表にてご自身の損益をご確認ください。

【お問合せ先】岡藤商事株式会社 コールセンター

Web site: <http://assettry.com>

フリーダイヤル: 0120-66-8639 (受付時間: 土日祝日を除く平日8:30～17:00) E-mail: center@okato.co.jp

◆当資料は金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。◆騰落率の数値は、運用開始日の1口当たりの純資産価額(¥1,000,000)を基準に算出しています。(小数点以下第4位を四捨五入)。◆上記数値はあくまでも速報値でありコスト等は概算のため解約時の資産価値とは一致しないことがあります。◆当ファンドの運用成績は過去の実績に基づいたものであり、将来の運用成績を保証するものではありません。◆当ファンドの純資産価額は運用対象である商品、有価証券、通貨、金利の先物取引や現物取引などの値動きの影響を受け、投資元本を割り込むことがあります。◆当資料は先物運用顧問会社であるマンインベストメンツの情報提供により、信頼できると判断したデータに基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。◆当資料は当ファンドの受益者へ情報を提供することのみを目的としたものであり、ここに記載される商品の売却や購入について勧誘するものではありません。◆当ファンドは円建の積極運用追加型商品ファンドです。

